三学期修了式 校長講話「一年間かけてためた色」

令和7年3月14日

みなさんおはようございます。三学期も残すところあと二日になりました。雪の降らない冬でこのまま春になってしまうのかなと思っていたところ、先週の雪には驚かされました。それもすぐに解け、改めて春が近づいているんだなと思いました。はじめに、この写真を見てください。

11月に話した箒を持った小僧さんの石像でのある場所がみつかりました。三峰川を挟んで手良の反対側、伊那市富島の金鳳寺というお寺にありました。4年生の Rさんが伊那市にあるお寺に端から電話をかけて、ほうきを持った石像がないかを聞いたそうです。さらに、家族でお寺に出かけ写真をとってきて確認してくれました。この石像のある場所がわかってとてもすっきりしました。Rさん見つけてくれてありがとうございました。

さて、一学期の始業式で、これから一年間大事にしていく三つの合言葉についてお話ししました。

「みんなと学ぶ」(「友だちと思いを伝え、考え合おう」「手良の自然や人から体験を通して学ぼう」)

「みんなが笑顔」(「すすんであいさつしよう」「友だちの気持ちを考えて接しよう」)

「みんなと一緒に」(「保育園の友だちとなかよくなろう」「地域の方とふれ合おう」)

の3つです。みなさんはどうだったでしょうか。

手良小学校の一人ひとりが、この3つのことを大事にして学校生活を送ってきて、今、目の前にいる皆さんは、体も大きく成長し、顔つきは、とてもしっかりしていて自信が感じられ、楽しい充実した毎日の満足感や充実感が伝わってきます。本当に一年間でたくさんのことを学び、自分の力にしてきたのだなと思います。

次に、皆さんこれはある花が咲く木の芽です、なんの木の花芽かわかりますか？ 桜です。

花が咲くにはもう少し時間がかかりますが、少しずつ芽が膨らんできた気がします。この花芽を一つとって切ってみました。

見てください。すでに雄しべや雌しべ、花びらが芽のなかでできているのが分かります。でも、あのきれいな桜の花の色はどこにも見えません。

果たしてどこにあるのでしょうか。その答えは、桜の木の枝や幹の中です。

本当に、枝や幹の中にあるのか、草木染めをして桜の花の色を染めだして見ることにしました。

私の家には八重桜の木があって毎年きれいな花を咲かせていたのですが、大きくなりすぎたので、この間、木を切り倒しました。

その枝を使って、ハンカチを染めることにしました。

最初に、ハンカチが染まりやすくするために、豆乳にしばらく漬けます。

小枝を小さく切ります。

鍋に水を入れて40分くらい小枝を煮ます。

完成した、染める液ができました。赤っぽい色になりました。

完成した染める液1ℓを鍋に入れ、温度を70度くらいに保ちながら、ハンカチを20分ほど入れます。それを水で洗って、今度はみょうばん水に漬けます。

これを3回繰り返し、水で洗って乾かしました。繰り返すごとに色が濃くなります。

これは1回目(実物を見せる)

2回目はこんな感じで、1回目より色がついているのが分かります。

そして、3回やって乾かしたあとはこんな感じです。

染める前と染めた後のハンカチを比べてみるとちゃんと桜色になっているのが分かりますね。桜の花の色は枝や幹の中にあることが確かめられました。

初めて桜の枝を煮て草木染をしました。さくら色に染まったハンカチのなかに、この桜の生きていた証が移ったと感じ、この色は、八重桜の命の色だと思いました。

ところで、いろいろ調べてみると、一番きれいな桜色に染まるのは、春先、花が咲く前のつぼみのついた枝だそうです。咲き終わったあとの桜の枝ではきれいに色が出ないのです。不思議ですね。

日本人の心の花である桜は、春本番を私たちに知らせ、私たちの気持ちを温かく、そして、活動のエネルギーを与えてくれる存在です。

花を咲かせ終えた桜は、新たな若葉を広げ成長していきます。それと同時に一年間をかけて、あのきれいな桜色を自分自身のなかに蓄えていくのです。夏の暑さや冬の寒さに堪え、気温が上がってくると、一気に水分を吸い上げ、蓄えてきた、桜の色を花芽に送り込み、花を咲かせるのです。

自然って実に神秘的で不思議ですね。

これは、皆さんにも当てはまる気がします。一年間手良小学校での生活を通して成長させてきた自分の力を、4月新たな学年に進級、進学に合わせて解き放ち、一段上の段階のスタートを切るのです。そして、また一年間かけてさらに力をつけていくのです。

春休み、しっかりと準備をし、新学期への頑張る気持ちをためてください。そして、4月、新たなスタートを切りましょう。

さて、いよいよ明日は卒業式です。6年生の皆さんに、感謝の気持ちやおめでとうの気持ちを表す最後の日です。そして、これまでお世話になってきた先生方とお別れする式もあります。心を込めて卒業をお祝いし、しっかりとお別れをする日にしましょう。。